

令和7年度第1回庄原市外国語教育研修会

令和7年6月23日(月) 庄原市立高野小学校

<研修会の目的>

- ・ 小学校外国語科の授業研究を通して、本市小学生の実態及び小学校の取組を知るとともに、児童生徒のコミュニケーション能力の育成に向けた指導方法の在り方について研究を深める。
- ・ 外国語科の授業づくりのポイントについて理解を深めるとともに、校区内の小学校、中学校の取組や状況について協議することを通して、本市外国語教育の充実に資する。

【研究授業】第6学年 Unit3「My Weekend」

授業者 庄原市立高野小学校 教諭 秋山 さくら、ALT Eden Greig

単元ゴール

イーデン先生に日本でのおすすめの週末の過ごし方を知ってもらうために、これまでに経験した楽しかった週末の過ごし方を伝え合おう。

本時のめあて

イーデン先生におすすめできるように、おすすめの週末の過ごし方をさらに詳しくしよう。

<指導のポイント>

- ・ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確に設定する。
- ・ 一人一台のタブレット端末を活用し、個別に英語表現を調べ発話練習を進めたり、児童が自身の話す内容を見通したりできるようにする。
- ・ 自分が伝えたい表現を友達と共有し合い、互いにアドバイスをしながら改善していく協働的な学びを促す。
- ・ 教師やALTによる適切な見取りと指導を行い、中間指導の充実を図る。



【研究協議】児童のコミュニケーション能力の育成に向けた指導の工夫について

<協議内容>

- 教師のデモンストレーションから児童に気付かせたり、ICTを上手に活用されたりしており、大変参考になった。
- 児童が目的をもって主体的に学ぶことができるような必然性のある単元ゴールを考えて実践しようと思った。授業における一人一台端末の活用について、個別最適、協働的な学びの行き来に有効だと感じた。
- 目指す児童の姿を明確化し、そこへ向けて本時の授業をどうするか、授業の組み立てをしっかりとする必要があると学んだ。また、児童の実態に合わせ、児童が既習表現をもとに伝えたいことが伝えられるようなゴール設定も大切であると思った。
- 外国語科の授業に限らず、単元ゴールに目的意識をもたせること、また、目標達成に向けた指導計画や準備が大切だと分かった。ICTの活用がなかなかできていないところだったので、これから活用していきたい。

【講話・交流】「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に向けた外国語科の授業づくりについて」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 福原 理恵

- 小中の接続を意識した外国語科の授業づくりについて理解を深めるとともに、それぞれの校区で小学校と中学校の円滑な接続に向けた指導について交流・協議を行った。
- ・ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確にした必然性のあるゴールを設定する。
- ・ 言語活動を通して指導をする。



【参加者の振り返りより】

- ・ 中学校区で CAN-DO リストを統一するなど、中学校区で共通して取り組むことについて、活発に意見交流ができた。CAN-DO リストを活用しながらたてのつながりも意識した授業づくりを行っていきたい。
- ・ 交流を通して、小学校での取組が中学校で生かされていることが分かった。小中の接続をスムーズにしていけることが大切であると感じた。
- ・ 日頃から他学年の授業を見せてもらい、外国語の授業について、もっと気軽に職員室でも話せるような雰囲気を作っていきたい。
- ・ 中学校入学までに児童に付けておくべき力を共有でき、見通しをもつことができた。明日から目的をもって授業ができると思った。